東洋紡株式会社　2025 中期経営計画説明会 質疑応答要旨

日時：2024 年 5 月 14 日（火）　9:45～10:30

場所：WEB 形式

説明者：代表取締役　社長　竹内　郁夫

本資料中の将来の業績見通し等に関する記述は、現時点における情報に基づいており、
当社として保証するものではありません。実際の業績等は、さまざまな要因により異なる可能性があります。

Q：2025 中期経営計画（以下、中計）の後半 2 年（24 年度、25 年度）において、コストと投資の面で規律をかけて筋肉質化を進めようとしていると理解した。26 年度以降のフェーズでは、再び量的拡大を目指すのか、あるいは高付加価値を追求していくのか？

Ａ：高付加価値を追求していく。代表例として、包装用フィルムの場合、中計策定当初、量の拡大を目指していたが、今後は付加価値の取りにくい製品の拡大は抑えていく。収益性の低い製品については資産を圧縮し、全体として資産は増やさず利益率を上げ、資産効率を重視していく。

Q：東洋紡エムシー㈱について、25 年度の増益幅が大きく、見通しの修正も無いが、中計後半 2 年で本格的なシナジー効果が発現すると見ているのか？

Ａ：三菱商事㈱との協業により、当社単独では接触出来なかったユーザーとの新たな接点が、この 1 年で確実に増えており、中計の後半 2 年間で事業に繋がってくるものもあると見ている。環境領域のうち、規制が関連する分野は早期に立ち上がると予想される。一方、リサイクル分野は仕組み作りが必要であり時間がかかる。モビリティ領域についても、自動車 OEM の認証が必要のため時間がかかる。新組織「モビリティ事業推進ユニット」において長期の開発ロードマップを作成し、次世代自動車の企画構想段階から自動車 OEM にアプローチしていく。

Q：フィルム全体について、現在の柱である“コスモシャイン SRF”に加えて、セラミックコンデンサ用離型フィルムの新機台が寄与するにもかかわらず、25 年度見通しが当初目標を下回る理由は何か？

Ａ：“コスモシャイン SRF”は、当初計画以上に進捗しているが、それ以外の一般の工業用フィルム、包装用フィルムについて下振れが見込まれるため。セラミックコンデンサ用離型フィルムの新設備は 25 年度に稼働開始する計画だが、本格的に利益貢献するのは 26 年度以降と見ている。

Q：包装用フィルムについて、中計策定前と現在で何が変わったのか？

Ａ：過去は国産ナフサ価格約 3 万円/kl をベースとしたコスト構造であり、汎用品でも十分利益が取れていたが、現在は、原燃料価格の高止まりにより利益が取れなくなった。資本コストを上回る収益性に戻すため、限界利益の低い汎用品は減らさざるを得ない。加えて、環境配慮製品、特に超高剛性 OPP フィルムをはじめとした当社の優位性の高い製品は、国内だけでなく、海外にも展開していくことで収益を改善させていく。

以上